

2007年3月25日 奥武蔵レクロゲイン大会 (埼玉県)日高市

オリエンテーリングとはまた違ったナビゲーション・スポーツが多く参加者を夢中にさせる。

81 チームが雨を楽しむ

去る3月25日、奥武蔵と呼ばれる埼玉県西部の里山を舞台としてロゲインの大会が行われた。この大会を主催したのは村越真を代表とするナビゲーション&ランニングチーム『TEAM 阿闍梨』。あいにくの雨模様にもかかわらず81チーム約200名のMTB、トレイルランナー、アドベンチャーレーサー、オリエンティアなど様々なアウトドアアスリートの熱い戦いが繰り広げられた。

レクロゲイン生みの親！？

そもそも、このイベントのアイデアはオリエンテーリング元日本代表である田島利佳、高橋善徳によって生み出された。この2人は埼玉県の飯能市に住み、日々のトレーニングを周辺の里山で行っている。この一帯は昔から山歩きが非常に盛んな地域で、あちらこちらに素晴らしいトレイルが広がっているからである。

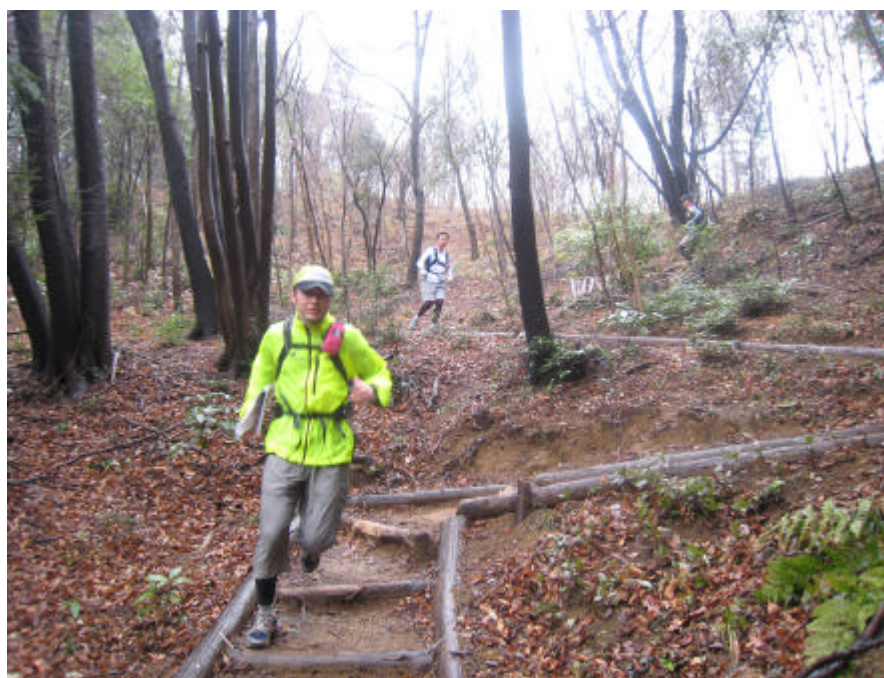
西武鉄道では低山の各山頂にポイント置き、登頂した証明写真によって景品が当たるというイベントを行っていた。かねてから、この地域でイベントを行いたいと思っていた二人は、西武鉄道のイベントをヒントに通過証明に撮影写真を使うというロゲインの大会を思いついたのである。

ロゲインとは？

ロゲインという競技は大規模なスコアオリエンテーリングと考えるともらえればわかりやすい。

日本でも既に菅平高原を競技エリアとした菅平ロゲイン、世界選手権が行われた三河高原を競技エリアとした世界選手権メモリアルロゲインが開催されているが、とにかく競技エリアの広さが半端ではない。本場のフルロゲインになると制限時間が24時間で、チェックポイントは新聞1面の大きさの地図にちりばめられている。地図の縮尺が1:20,000~1:30,000というのだからすさまじい広さだと想像できよう。

それらのすべてのチェックポイントを回ることは不可能なため、チェック



雨中の里山を激走する、ロゲイナーたち

ポイントをどういう順番で回るかということがとても重要な戦略となるのだ。

レクロゲインの特徴

菅平ロゲイン、メモリアルロゲインとこの奥武蔵レクロゲインの異なる点は3つある。

一つは先ほども言ったように通過証明の形式である。レクロゲインでは通常のチェックカードあるいはEカードではなくデジカメで撮った写真を通過証明として用いる。写真を撮るポイントはそれぞれ観光名所になっていて、競技をしながら奥武蔵の観光名所を回れるのだ。撮影のポーズも指定されているため、時には観光客が沢山いる場所で『イナバウアー』などのポーズをとらなければならない。また、このアイデアは運営側にもメリットをもたらしている。チェックポイントに写真を使うことでコントロール設置し管理するという大きな手間が省けるのである。

二つ目はなんと言っても『公共交通機関の使用が認められている』点だろう。競技エリアの中心を東西に結ぶ西武秩父線をはじめ、南北を結ぶ八高線、各バス会社のローカル路線など充実した公共交通機関を全て利用することが可能である。このことによって「ロゲイン=過酷な競技」という図式を崩し、

「レク(=レクリエーション)ロゲイン=楽しい競技」という敷居の低さを実現した。また、公共交通機関の使用を認めたことにより、戦略面の幅も広がり、時刻表を調べるなどの事前準備の楽しみも増えたようだ。

そして三つ目は、混合6時間、男子6時間、女子6時間、家族6時間、MTB6時間、混合3時間、男子3時間、家族3時間、MTB3時間という9クラス(女子3時間は参加者がいないため開催されず)もの充実したクラスわけがある点だ。レクリエーション性を前面に押し出しているため参加者層も非常に幅広い。特に家族の部に配慮したコース設定の影響が家族の部の参加者は年々増えてきている。また、前回に引き続き、男女混合クラスの参加チーム数は36チームと最多であった。



雨にもかかわらず楽しそうな家族組。

雨の中のレクロゲイン

さて、今年のレクロゲインに話を戻そう。小雨にもかかわらず各方面からたくさんの参加者が日高市の巾着田に集まった。日頃オリエンテーリングの会場とは全く異なる雰囲気、バリバリのトレイルランナーやアドベンチャーレーサー、マラソンランナー、MTBを転がすサイクリスト、オリエンティア、散歩気分で来た家族連れなど様々なレベルの参加者達が集まる姿は圧巻である。



春めいた巾着田の中をのんびりゴールに向かう参加者

雨が降りしきる中、スタート10分前にチェックポイントが記された地図が参加者に配られた。今回の地図は国土地理院発行の地図(A3)が2枚と日和田山、高麗郷、天覧山を含むオリエンテーリングマップ(A3)が1枚。

私達オリエンテーリング愛好者とは異なり、参加者全員が地形図を使ったナビゲーションを得意としているわけではない。しかしそれぞれの参加者が地図とにらめっこして、真剣に戦略を練っている姿は、地図を使った戦略的ナビゲーション競技の真髄を見た気がした。予想、計画、確認、実行、そして修正。その流れを行うことを本質とするナビゲーション競技はこうも人を夢中にさせるものなのか。

TEAM 阿闍梨からは代表村越、元日本代表高橋、MTB-0元日本代表宮林がパトロールがてらスペシャルランナーとして参戦した。山の中で参加者達に声をかけると誰もが元気で、この競技を楽しんでいる様子が伺えた。あるグループはストイックに、あるグループは楽しく、それぞれの体力に合わせてそれぞれのペースで自分の目標とするチェックポイント目指す姿は、オリエン

ティアである自分の原点を見る思いだった。

14時をまわり、会場の巾着田には参加者が続々集まってきた。疲れきった表情を浮かべるもの、充実感を体全体で表すもの、道に迷ってしまったのか悔しさをにじませるもの、たくさんの参加者の姿があったが、印象的なのはそのすべてがゴール後に地図を見て感想を言いあったり反省を口ずさんでいる点だった。

『ここで迷っちゃってさー』『こっちのポイントを捨てて、こっちを取ればよかったよ』『あそこからの景色きれいだっただね!』『ただ走るよりもナビやりながらのほうが楽しいな』そんな言葉を聞いていると、レクロゲイン自体の魅力にいまさらながら驚き、オリエンテーリングを含めたナビゲーションスポーツの可能性を感じる。

加藤 番場組が最高得点

最後に成績に目を向けてみよう。今年のレクロゲインにはオリエンテーリング日本代表の加藤弘之選手と番場洋子選手が激戦クラス(男女混合の部)で見事優勝を飾った。加藤選手と番場選手の獲得した点数は1150点!なんとスペシャルランナーを合わせた全参加選手中最高得点であった。冬の走り込みがしっかりと結果に結びついたようだ。今年夏に行われる世界選手権(ウクライナ)での活躍が期待される。



カシオからは、アウトドアウォッチのプロトレック最新機種が最高得点の「ゾンビと野獣」(加藤・番場)チームへ

奥武蔵レクロゲインは来年も開催予定である。いつものオリエンテーリング大会では味わえない、戦略面の面白さ、とびきりの充実感、そして異なるフィールドで活躍する人達との出会いを求めて、参加してみたいだろうか。

アンケートより

200名近い参加があり、そのうちのかなりの割合の人からアンケートが集まった。オリエンティアではない大多数

を占める参加者が、オリエンテーリング的な競技に接してどう感じたかを知る貴重な資料なので、その一部を紹介したい。

*6時間という競技時間について

「6時間は、短く感じられました/個人的にはもっと長い方が嬉しい/もう少し長い時間の部があると嬉しい/問題ありません。娘もまだ大丈夫です/少し足りない気がしました」長いからきついわけではない。むしろ長いからのんびり楽しめるようだ。

*ナビゲーションスポーツへの参加

肯定的なのは90%だが、オリエンテーリングへの参加となると70%に落ちる。オリエンテーリングへの不満としてあるのは、「順番が決められているのがつまらない」「通常のオリエンテーリングは、競技時間より会場までの往復時間の方がずっと長いので近場なら出たい」こんなところは普及面でのヒントになりそうである。



スポンサーからも様々な賞品が!アウトドアブランドで有名なザ・ノース・フェイスからはトレイルランニングシューズなどが。

(高橋善徳)